

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	1	室戸	高等学校	課程	全
------	---	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	地域と協働して地元の資源を生かした特色ある教育活動を展開し、学校の垣根を超えて学びを深化させることにより、地域社会を担う人材を育成する。 ジオパーク等の地域資源を生かした探究型学習や国際交流を推進することで、グローバルな視点を持って地域社会に貢献する人材を育成する。
スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○将来の進路実現に向けて前向きに取り組む生徒を募集します。○自己の個性や長所を伸ばそうと努力する生徒を募集します。○何事にも誠意を持って熱心に取り組むことのできる生徒を募集します。○他人の人格や人権を尊重することのできる生徒を募集します。○常に向上心を持って行動できる生徒を募集します。○ボランティア活動や地域防災など自分の力を社会に役立てたい生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ①進路希望を実現するための学ぶ力を育成します。 ②主体的・対話的で深い学びをする実行力を育成します。 ③地域の課題を探究し、地域のリーダーとして活躍する力を育成します。 ④基本的な生活習慣を身につけ行動する力を育成します。 ⑤確かな人権意識と豊かな人間性を育成します。		【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ①少人数指導や効果的なICT活用により、生徒に応じた個別学習を実施します。 ②国際交流活動によりグローバルな視点をもたせ、質の高い授業を実施します。 ③専門科目の資格取得をめざした学習を積極的に推進します。 ④室戸ユネスコ世界ジオパークの資源を活用し探究の学びを推進します。 ⑤個性の伸長を図るキャリア教育を推進します。 ⑥地域貢献のための知識や技能を身につける授業を実施します。

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
目標を持って進学してくる生徒は、それなりに目標を達成している。学科の特性を活かし生徒の資質を伸ばしている。目標数値について、年度末評価が中間評価より低くなっているものや未達成のものなど、気になる点が多い。今後、目標値をどの程度とするのか、目標値に向かってどのように取り組んでいくのかなどの効果検証が必要。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
学校内外において、社会活動を活発に行い、地域との交流も好評であったと感じる。ボランティア活動に県外出身学生が一生涯懸命取り組んでいるのはうれしく感じる。昨年度より数値が向上してはいるが令和7年度目標は達成されていない。目標値をどの程度に設定するのか、どのように取り組んでいくのかなどの効果検証が必要。	
【チーム学校】	評価 【 B 】
校長のリーダーシップの下、「海外に一番近い高校」のキャッチフレーズで生徒たちの活動が目に見えて生き生きとしている。室戸高校に県外出身者が多いのはうれしい事だ。もっともっと地元から進学者が増えるのもいい。働き方改革は目標を達成できていないので改善が必要。	

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学力的向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	①高校2年でのC層以上の割合70%以上 ・1年(R7年度1年4月55%→(R7年度1年11月目標)60%) ・2年(R6年度1年4月)48.0%→(R7年度2年11月目標)70% ②授業外学習時間の増加(R6平日67分休日91分)→(R7年度11月目標平日75分休日100分) ③将来のための勉強をしている生徒の増加(R6 1年100%2年81.3%3年96.9%)→(R7年度目標1年100%2年85%3年100%) ④地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる生徒85%以上(R6:78.1%)	○進学補習および室戸市との連携による「公設塾」・「学習支援サポーター」の活用 ○「めあて・思判表・振り返り」の3項目を意識した授業改善 ○ICT(すらら等)や学習支援員を活用した個別最適化学習を推進し、学びのシームレス化を図る。	①4月・1年55%・2年46% ②授業外学習時間7月・平日74分休日114分 ③7月 1年89% 2年96% 3年96% ④76%	B	○学習支援員、SC、公設塾を活用する。 ○公設塾実施のためのスケジュール調整と細かな声掛けを行う。 ○すららを活用する。 ○探究活動に向け、生徒の積極的な参加を促す。	①11月・1年63%・2年54.5% ②授業外学習時間11月・平日68分 休日108分 ③11月 1年87% 2年88% 3年90% ④77% *①は1年のみ目標達成。②は休日のみ目標達成。③は2年のみ目標達成。④は目標のみならず、昨年度よりも数値が下がっている。比較的高めに目標を設定したが、ある部分で達成できておりBとした。	①は1・2年次生ともに向上している。②土日や放課後に行う探究活動も授業外学習であることを生徒に伝えた上でアンケートを実施する。
	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	県調査(高校3年)において ①「立場や年齢、考え方の異なる相手でも、その意見を聞き、理解しようとしている」100% (R6:92.7%) ②「高校入学以降、地域や社会をよくするために、地域貢献活動やボランティア活動などを行ったことがある」90%以上(R6:87.5%)	○国際交流(異文化理解) ○生徒会、部活動を中心としたボランティア活動や地域貢献活動への参加 ○課題研究(対話的な学びや他者との協働) ○インターンシップ ○サマーセミナー(大学との連携事業) ○「インタビューシップ」のポスターセッション	県調査 7月 ①1年96% 2年96% 3年96% ②1年 30% 2年51% 3年61%	C	○海外スタディツアー参加生徒の活動を積極的に広める。 ○ボランティア活動への積極的な参加の呼びかけを行う。	県調査 11月 ①1年95% 2年95% 3年97%(平均95.6%) ②1年43% 2年60% 3年68%(平均57.3%) *①は努力の成果は出たが目標には届いていない。②は年度途中よりは上がったものの、数値は低い。社会性育成は日常的に意識的に取り組んでおり、Bとした。	①昨年度よりも数値が大きく向上した。国際理解教育による効果であることを期待して継続したい。 ②オリジナルアンケートでは80%であり、活動そのものが意識されていないと思われ、アンケート実施時に注意をする。
地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	高校魅力化評価システムによる下記の全項目85%以上 ①地域の魅力や資源について考える(R6:84.4%) ②地域の人や課題などにじかに触れる機会がある(R6:88.5%) ③自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある(R6:81.3%) ④地域をよくするため、地域における問題に関わりたい(R6:70.8%)	○室戸市産業振興課・地元産業界との連携による「インタビューシップ」プログラムの開発・実施 ○探究学習(室戸学・ジオパーク学・課題研究)におけるコーディネータの活用 →地域人材・専門家への接続	高校魅力化評価システム 7月 ①78% ②89% ③85% ④75%	B	○ジオパーク同好会が発足して活動が活発になっている。ジオパークイベントやボランティアの案内を積極的に進行。 ○後期は探究活動・課題研究発表等の機会を活用し、取組を校内外にさらに広める。	高校魅力化評価システム 11月 ①86% ②90% ③85% ④75% *①～③については数値が上がり、目標を達成した。④については目標には届かなかったが数値は上がったため、Aとした。	4項目とも中間評価を経て少しずつ上昇しているため、引き続き広く声掛けを行い、活動を広めていく。
	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	①生徒にしっかりと考えさせようという意識を、発表させる機会を与える授業を全教員が2回以上実施(R6:95%達成) ②探究学習や国際交流活動は、学びを深めて活用範囲を広げるため、教科横断的な視点で取り組む(10事例以上)	○発表機会を年間指導計画へ位置づける ○産業界と人間、続・産業界と人間、ジオパーク学、課題研究、国際交流活動における教科間連携	①78%(10月現在) ②国際交流9(ナビゲーターカレッジ6、龍馬学園3)、課題研究13	B	○公開・参観授業研修を実施し、事務職員を含め、多面的な指導を試みる。	①100%(12月) ②国際交流9(ナビゲーターカレッジ6、龍馬学園3)、課題研究13 2年生4テーマ 合計26例 *教員調査では全42例。校内全体として十分取組ができておりとみなし、Aとした。	教員にしっかりと伝達し、アンケートを実施して100%を実現した。継続的に声掛けをしていきたい。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○「海外に一番近い高校」のさらなる推進 ○地元中学校からの進学率向上(R15目標50%) R5:31%R6:44% ○県外からの入学生を確保(R9目標10名) R5:3名 R6:9名	①ALT以外の外国人と交流したことがある生徒95%以上(R6:89%) ②国公立大学への進学実績向上(文理総合系列で30%以上) R5:33%R6:16.7% ③探究学習の充実(メディア露出15回以上) R5:5回R6:24回 ④女子硬式野球部への入部を目的に地元以外から入学する生徒5名以上(R6:3名) ⑤海外交流を目的に地元以外から入学する生徒12名以上(R6:7名) ⑥学校運営協議会等の実施回数2回(R5:1回 R6:2回 9月と2月に実施予定)	○室戸ジオパーク推進協議会・室戸市友好交流協会との連携による国際交流活動 ○進路指導体制の見直し・探究学習を軸にした推薦制度の活用 ○探究推進委員会による探究学習の見直し・ブラッシュアップ ○女子野球部のSNS発信とスカウト活動 ○地域みらい留学におけるPR方法の見直し ○学校案内の刷新	A ①海外生徒派遣4か国(韓国・オーストラリア・マレーシア・香港) ②国公立大学希望9人/20人(文理総合) ③メディア露出4～8月9回 ④女子硬式野球部目的の入学生徒R7 4名(5名が入部) ⑤R7 7名 ※8月末オンライン面談のべ15名・学校訪問見学のべ24名	A	○対面交流だけでなく、オンライン等を活用し、さらに発展的に実施する。 ○粘り強い進路指導によって進学率を上げる。 ○女子硬式野球部・みらい留学の積極的な勧誘を行う。	①92% ②40%(8/20人:文理総合) *国公立大学希望者8人/9人 ③メディア露出 4月～1月24日 20回 ④R7 4名(5名が入部) R8 フロンティアで4名 ⑤R7 7名 R8 フロンティアで17名 *①と④では少し目標値に届かなかったが、ほぼ全体的に目標値を大きくクリアしたためAとした。	全体的にほぼ目標数値を達成できたので、次の課題はこれらを継続させるしくみづくりと考える。県外からの入学については寮の在り方を大幅に変更する過渡期となっている。
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○倫理観堅持のための具体的な目標(指標) 教職員への継続的な注意喚起(1回/月以上) ○校内研修の実施回数 1回/学期 ○不祥事防止委員会の実施回数 1回/学期 不注意事案0件 ハラスメント理解100%	○関係法令や過去の通知文の定期的な周知 ○教育実習生受け入れ前のハラスメント研修 ○「職務上の義務」、「身分上の義務」の徹底 ○不祥事防止強化月間の設定 ○管理職による声掛け、積極的なコミュニケーション ○前年踏襲型からの脱却・提案型の推奨・適切な評価	A ○不祥事防止月間を設定し、毎週研修会を実施。 ○管理職による日常的な細やかな声掛けの実施。	A	○校内研修実施を継続する。 ○日常的な声掛けを継続して行う。	○不祥事防止月間を設定し、毎週研修会を実施。 ○職員朝礼等での管理職による日常的な細やかな声掛けの実施。 *日常的に声掛けや、不祥事防止月間等にもきっちりと連絡・研修を実施したためAとした。	ほぼ予定通り実施できた。引き続き細やかな声掛けを継続したい。
	★長時間勤務の解消 ○時間の意識 ○タイムマネジメント ○業務の平準化 ○教育の質の向上を意欲	○時間外在籍時間 ①45時間/月 を超える教員5名以下、延べ25名以下(R6:15/23名、延べ28/276人) ②360時間/年 を超える教員5名以下(R6:8名)	○ノー残業デーの設定(毎週水曜日) ○長期休業中の学校閉庁日の設定 ○働き方改革担当教員を主導とする改革案の募集・検討・実行 ○コーディネーター活用による探究学習の負担軽減	C ○7月 働き方改革校内研修実施 ①時間外在籍45時間/月を超える教員4～8月延べ14名	C	○さらに働き方改革の意見を集約し、現実化する。 ○ノー残業デー徹底を呼びかける。	○7月 働き方改革校内研修実施 ①45時間/月 を超える教員13名、延べ38名(4月～1月:13/23名、延べ38/250人) ②360時間/年 を超える教員9名(R6:8名) *残業時間は増加したが、校内研修を実施する等の取組が実施できたためBとした。	働き方改革担当者を中心に、職員室のレイアウト変更で仕事のしやすい環境整備をしていくなど、新たな取組を検討する。